

令和2年度第2回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日 時

令和3年3月23日（火） 午後1時30分から午後3時30分

2 場 所

青梅市役所 議会棟3階 第2委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫委員 ※川合 純委員 原島正之委員
※手塚幸子委員 ※島田 彩委員 ※宇津木順一委員
田邊 晃委員 ※大住修司委員 伊藤武夫委員
細谷秀秋委員

※印の委員は、リモート出席。

[出席青梅市職員]

浜中市長以下10名

4 議事概要

(1) 市長あいさつ

(2) 委員長あいさつ

(3) 議題

ア 新型コロナウイルス感染症に対する青梅市の独自事業（追加分）について

【財政課長説明】

前回委員会時（令和2年10月）から追加となった新型コロナウイルス感染症に対する独自事業の説明。

イ 令和3年度の青梅市当初予算について

【財政課長説明】

令和3年度の当初予算の概要および主な事業についての説明。

ウ 青梅市の行財政運営に関する意見交換について

「青梅市の市民サービスについて」をテーマとし、委員間で意見交換を行った。

(4) その他

・次回委員会は、委員長と調整の上、令和3年5月頃の開催予定。

5 主な質疑・意見等

○ 令和3年度の青梅市当初予算について

【質問】 個人市民税、法人市民税、固定資産税等の市税について、前年度と比較して落ち込むのは仕方ないと思うが、この不足分については、地方交付税で賄われるのか。また、地方交付税の額については、市が見込んだ額なのか、それとも国と話し合いをし

て決めるものなのか。

【回答】 地方交付税や臨時財政対策債などで措置される。また、金額については、国から地方財政計画が示されるので、その伸び率等を勘案しながら計上している。

【質問】 一般会計予算が昨年と比較して、4億円増えたが、モーターボート競走事業の繰入金の影響をどう捉えているか。

【回答】 他市では、市の貯金である財政調整基金を取り崩して予算編成しているが、青梅市では、モーターボート競走事業の繰入金を前年度比4億円余増の13億円余を計上したことで、その影響で、財政調整基金を取り崩すことなく、予算を編成することができた。

【質問】 地方交付税の使いみちについては、国に縛られることなく、市長の判断で使うことができるのか。

【回答】 地方交付税は、自治体の規模に応じた基準財政需要額をもとに算定されるが、その需要額どおりに必ず使用しなければならないというものではなく、市税と同様に一般財源として、幅広く使うことができる。

【質問】 下水道事業に対する繰出金はいくらか。

【回答】 令和3年度の下水道事業会計への繰出金の予算額は11億3,400万円余となっており、前年度と比較して、5,500万円余の増となっている。

【質問】 教育費の予算に、旧吉野家住宅屋根葺き替え工事や吉川英治記念館ブロック塀改修工事が含まれているが、観光事業的な意味を含んでいるので、商工費には、ならないのか。

【回答】 旧吉野家住宅および吉川英治記念館は、教育委員会の文化課が所管していることから教育費の扱いとしているが、集客が見込める施設なので、観光部門との連携は必要と考える。

【質問】 教育費の予算に、学校用インターネット回線導入として、235万3千円が計上されているが、市内28校とすると、1校あたり8万9千円、1か月あたり7千円位の金額になると思うが、十分な通信環境が確保されるのか。

【回答】 令和2年度において、GIGAスクール構想にもとづき1人1台端末の整備とともに、各学校に高速通信が可能な回線を敷設する工事により整備を行った。令和3年度の予算については、通信に係るプロバイダー料金等である。

○ 青梅市の行財政運営に関する意見交換について

【質問】 今回の意見交換の内容によっては、予算が変更になることはあるのか。

【回答】 予算は議決済みなので、組み替え等はないが、頂いた意見については、予算をいかにうまく使っていくかといった、執行の中で活用させていただきたい。

【意見】 昨年度の要望にもとづき、自治会の掲示板について、今年度カバーを取り付けていただき、雨や風で掲示物が破れることもなくなり、きれいになったが、大きな予算が掛かってはいないと思っている。従来から実施している事業においても、少しの費用で大きな効果が見込める事業もまだまだあるように感じる。各課等で従来の事業を見

直し、業務の簡素化等の業務改善をすることによって、経費を 10~20%程度削減し、その分を市民のために本当に必要な事業に予算を付けることが必要だと思う。

【意見】 (コロナ禍で) 外出が制限されていて、人出が少ないので、いろんな経費のスリム化にもつながっていく部分もあると思う。

【意見】 「市営住宅長寿命化の推進」、「空家等対策計画の策定」とあるが、費用をかけて新しくしていくこともいいが、空き家が増えている話をよく聞くので、空き家を市営住宅に替えるような発想があってもいいのではと思う。

【意見】 ごみの回収について、どのくらいの費用がかかっているかについて、先日、青梅市のごみ処理費用について、広報がされていて、大変分かりやすかったので、市民サービスについてこのくらい費用がかかっているという広報は継続して実施してほしい。

【意見】 市民 1 人あたりの市税負担額と行政サービス費が記載されている 26 市の財政比較の資料を確認したところ、市税負担額という点でみると、福生市が市民一人あたり 14 万円の市税負担に対し行政サービスに 43 万円を使っており、市税負担額が一番高い。青梅市は 15 万円弱の市税負担に対して 39 万円の行政サービスとなっており、市の負担が非常に重い。市民サービスを充実させるには、市税収入をいかに増やしていくかが大切である。特に法人市民税の落ち込みが大きく、これは青梅市だけではなく西多摩地区でも同じことがいえる。すぐに答えが出るものではないが、市民サービスを充実させるには、市税収入を増やしていかななくてはならないと切言する。

【意見】 新聞で「ふるさと納税で、損しているのか、得しているのか」が掲載されていたが、西多摩と昭島を含めて、すべての市町村が損をしている。青梅市においては、返礼品業者に支払う経費等を加味すると、ふるさと納税制度により、本来収入すべき 1 億円以上の市民税が毎年入ってこないことになっている。制度が継続するのであれば国に対して、ふるさと納税制度をやめてほしいと提言すべきだと思う。このままいくと、地方交付税の制度もあることから、均衡ある国土の発展の趣旨にもとづき、ふるさと納税はある一定の上限を設けるべきだと思う。

【質問】 青梅インターチェンジ周辺の開発について、どのくらい固定資産税の試算をしているか。また、整備についてはどのくらいの経費を見込んでいるのか。開発して得をするのかという視点により進める必要がある。

【回答】 青梅インターチェンジ周辺の整備事業費については、組合施行による区画整理事業であり、市として組合へ補助金という形になる。

【意見】 政府が 2050 年までに「カーボンニュートラル」を目指すということで、色々な面で社会の根本が変わってくると思うが、そういった中で、CO2 の削減ということでは、プラグインハイブリッド車の導入や、本庁舎の LED 化を実施しようとしているが、今後リサイクルセンターの整備や学校給食センターの建設については、そういった目線で限られた予算で整備をしていく必要がある。また、カーボンニュートラルに当たっては、新しい技術がたくさん出てくると思うので、そういった企業の誘致を実施し税収を増やしていく長期的な展望が必要だと思う。モーターボート競走事業は、市長がトップセールスをしているが、企業誘致においても、市長が企業へトップセールス

を行ったらどうか。

【**答**】 企業誘致条例によって、誘致された企業は3年間固定資産税を免除する内容だが、大手製造業の跡地に進出する物流関係の企業と市長も面談し、倉庫だけではなく、人も使って、場合によっては事務所を併設するような話も聞いている。青梅インターチェンジ周辺地区については、都市計画決定がされていないので、決定後にあたっては地元の組合施行にはなるが、市長も積極的にできることは進めていきたいという考えである。

【**観**】 カーボンニュートラルの取り組みの中で、ハイブリッド車の導入があるが、購入しても市内に充電する場所が無い。また、電気料が値上がりして負担が重くなっていることがあり、値上がりすれば国が補てんして高くなるという構造にはなっているが、青梅市も何かしらの対策をとった方がいいと思う。

【**観**】 職員の意識を見直し、より地域特性や市民の気持ちに寄り添った対応をお願いしたい。町内で未舗装の場所があった際に、市へ相談したが「市道ではないので何もできない」の一言で、どうすればいいのかについては何も示唆されなかった。もう少し、困っている状況をふまえて、少なくとも現場に行き当事者の話を聞く等の対応が必要ではないか。市民からすれば、国道も都道も市道も私道も生活に使っている道路には変わらない。もう少し広い目で自分の範囲外の仕事であっても対応してもらえないだろうか。市民の立場に寄り添った人材育成が必要ではないか。

【**答**】 市では、青梅市人材育成基本方針を策定しており、青梅市職員の目指すべき職員像を定めている。市民の立場に立ち、現場をよく知ることや市民の視点に立った丁寧な説明等ができるよう研修を積み重ね、人材育成に努めている。

【**観**】 昨年、日経 DUAL で共働き・子育てしやすいまちランキングで青梅市が9位にランキングされた。ぜひ、これを活用し、有効に PR していただきたい。オンラインであれば、都心から離れていても仕事ができるので、青梅は自然に恵まれ、子育てしやすく、土地も安く、家も建てやすいので、コロナ禍の中でチャンスととらえてほしい。

【**答**】 子育てについては、以前から注力をしており、まち・ひと・しごと創生総合戦略で策定しているとおり、子育て支援の一環として、保育所の増改築による定員の増や個別の支援を実施している。第2期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、直接的な給付金や保育所の整備だけでなく、「政策パッケージ」として、就労場所の確保や保健体制の充実など総合的に進めている。

【**問**】 総合病院の建て替えについての、先々に向けての展望を教えてください。

【**答**】 老朽化や手術室が狭く最先端のロボットを使用した手術に適應できないことから、全面建て替えを決定し、診療を続けながら現在の場所に建て替え、総事業費 300 億円前後を見込んでいます。令和5年度にプレオープン、令和8年度前後にグランドオープンを予定し、最先端医療に対応することができる。一時的には、単年度の赤字が数年続くが、オープン後には患者数および単価も増加する見込みであることから、早い時期に黒字転換となるような財政試算もされている。

【**問**】 デジタルトランスフォーメーションについて、国はデジタル庁、都はデジタル局、

という動きがあるような、市の新年度予算についても市民サービスに直結するようなデジタル化を推進するような事業があるか。

【答】 市においては、マイナンバーカードの普及促進を進めており、デジタル化の流れを確実にとらえていく必要があることから、新年度では、DX 推進経費として AI チャットボットの拡充や、RPA を全庁的に活用していくほか、対話アプリを活用した市と市民との接点となるような事業を検討している。

【観】 国のデジタル庁でも、地方を全て見切れないので、地域の IT 企業と連携してすすめていく動きがある。学校の GIGA スクール構想についても、設備は今年に完了するが、今後の運用の仕方については、大きな課題となっているため、早めに色々な意見を聞いて、検討した方がいいと思う。

【問】 ゴミ分別についての AI チャットボットについては、好評と聞いていることから、新年度においても市民サービスに直結する第 2 弾の取り組みを検討してほしい。

【観】 総合病院のクラスターが発生した際に、情報発信が遅く、噂が先行してしまった状況があった。情報発信のあり方を見直す必要がある。

【観】 現状では、医師の部屋が一緒だったり、利用者の出入口が一緒だったりしているが、建て替えにはそういった感染対策に配慮されているのか。

【答】 当初、設計した段階では、コロナが発生する前だったが、その後、一部詳細設計を変更した。

【問】 総合病院のクラスターについては、ホームページ火曜と木曜に情報発信する予定だったが、その内容が削除されてしまった。火曜と木曜と情報発信しなくなったことを発信。職員に対しての特別手当はもう支給されているのか。今年、そういった手当てが支給されるのかどうか。

【答】 ホームページについては、火曜と木曜に情報発信していたが、クラスターが落ち着いた段階で、必要に応じて情報発信するように切り替えたと思うが、不十分な点については、今後の反省点としていく。国から医療従事者についての手当てについては、雇用時期等の条件があるかもしれないが、職員全員に給付したと聞いている。今後も、国から病院への給付があれば支給する。

【問】 青梅駅前地区の市街地再開発事業について、8,700 万円余が計上されているのがその内容をお伺いしたい。

【答】 地元の地権者が準備組合を作って進めている。現時点において、1 階は商店、2 階を市の公益床とし、3 階以上はマンションという話を伺っている。国・都・市・組合が決められた割合によって負担することとなっており、市は、補助金として計上している。

【観】 青梅駅前は青梅発祥の地であるので、何らかの形で発展してほしいとは思いますが、商業施設を入れることについては難しいと考える。図書館等の青梅市の公共施設が入る形が望ましいと思う。

【観】 GIGA スクール構想については、各学校ごとに進めるのではなく、電子黒板を使用した教育等を含め、市としての構想を立てて進めてもらいたい。それに向かって進める

ことで学力向上へつなげ、学校教育の充実を図っていただきたい。

【意見】 企業誘致について、大きな工場を誘致することは難しいが、都市圏であり、人材は非常に豊かなので、人が考えて成り立つような事業や、ものづくりであったとしても開発拠点を合わせ持った企業を誘致していった方がよいのではないか。単にものを作って売るとなると従来型の工場では定着は難しいと思う。人材を活かし、決して大きくなくても、市場で戦い続けられるような技術革新している企業を誘致してほしいと思う。

【意見】 誘致だけでなく、市内の企業についても、支援を検討していただきたい。その支援が雇用等にもつながっていくと思う。

【回答】 企業誘致条例の固定資産税の免除については、市内から市内に移った場合でも適用になっている。市内企業については、色んな形で支援をしていき、商工業の活性化につなげていきたい。

【質問】 オリンピック・パラリンピック大会関連経費について、その具体的な内容をお伺いしたい。

【回答】 聖火リレーに係る経費や、ホストタウンとして、事前キャンプの経費等が計上されているが、今後の状況により執行では変更が生じる可能性はある。

【質問】 近所の公園のトイレについては、不衛生であるので改修を依頼しているが、予算がないと断られている。コロナ対策の一環として改修される予定はあるか。

【回答】 公園のトイレについては、都の補助制度を活用し、トイレの洋式化等について順次対応していく予定である。

【意見】 梅まつりが21日で終わったが、梅の再生を喜ぶお客さんが大分増えてきている。今後の青梅市のPRの仕方について、コロナ禍の中で、自宅でテレワークをしている方などに対して、青梅市が、近くて子育ても観光もできる環境であることをいろいろな角度でPRし、人口を増加させていけるように工夫を凝らしていただきたい。

【まとめ】 前回および今回の意見交換内容については、意見交換内容をまとめた報告書を作成し、青梅市行財政改革推進本部に報告の上で、市長へ提出する。委員各位には、事前にメール等で内容を確認いただき、5月中に開催予定の令和3年度第1回委員会にて、報告書の最終チェックを行っていただくこととしたい。

以上